

特別養護老人ホーム 望みの門 富士見の里

富士見の里 オープン



施設長 簾 昭博

台風一過、奇跡的な晴天に恵まれ「富士見の里」竣工式の日を迎えることができた。

二つの台風の狭間に与えられた束の間の晴天のもと、のぞみ会のことを覚え、祈りご支援くださった多くの御来賓のご参加により、のぞみ会創立五十周年記念感謝会ならびに富士見の里竣工式が盛大に行われました。事前準備の段階では、天候不順により式典及び式典後の施設内覧会がどのようなか予測がつかず心配しましたが、その心配はよそに、当日は見事に晴れて皆様を快くお迎えすることができました。

また、六月二十九日に県から開設認可を頂き、七月一日開設を迎えることができました。また翌七月二日には、遅ればせながら定礎式が執り行われました。木下理事長の式辞では、聖書の言葉から岩の上に建てられた家の話を例にあげられました。マタイによる福音書七章二四、二五節「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行こう者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである」。

富士見の里は、

現代の建築基準

と技術に基づき

この意味では確

かな建物となっ

ている。しかし、

その中で展開さ

れるサービスの

質がこれから問

われることとな

る。我々は、イ

エスの言葉を聞

いて行う者とな

る。なんと大きな使命だろうか。あらためて

この言葉を式辞としていただくにあたり、課

せられた事の重大さに再度身の引きしまる思

いを致しました。

開設にあたり、施設を目指す方向を明確にし

ていくため以下のことをビジョンとして取り組

んでいきたいと思いを強くしています。

加齢により施設生活を余儀なくされた高齢

者の皆様とそこご家族に、喜んで利用いただ

ける施設をめざします。それは、ただ単に利

用者や家族の要望をかなえ、満足していただ

くということではありません。施設を利用さ

れる高齢者及びご家族の方々には、社会の一

員として果たすべき役割があるということを

ご理解いただきます。そして、できることが



どんなに少なくても、どんなに障害があっても、自律していただきたいということ。出来ること成すべきことは自分で行うことです。そのために、利用者及びご家族と深くかわり、自律の実現に向けてサポートをするプロの集団でありたい。

老人サービス事業 望みの門 デイサービスセンター

「何時までもお元気で」



管理者 門馬 靖子

とうとう梅雨もあけ「暑いですね！」が朝の挨拶となってきました。気温が高いのは言うまでもないのですが、ついつい「ああ、湿気がなければ…」と思ってしまう。天気予報では連日の気温三〇度以上、熱中症についても注意をするように伝えていきます。

昨年の熱中症による死者は九二四人だったそうです。特に身体が高温に慣れていない梅雨明



け直後は、体内に熱をため込みやすいために発症しやすいそうです。入浴・レク後等の水分補給を行い、ご家庭でもこまめな水分摂取を心がけるようにお話をしています。

先日健康寿命なるものが発表されました。人の世話にならず、健康なまま毎日をお過ごしができる年齢のことだそうです。二〇一二年の全国平均は男性が七〇・四二歳、女性が七三・六二歳で、千葉県の男性は七一・六二歳で第三位でした。日本の平均寿命は、暮らしが便利になったり、医学が進歩したりと、ずいぶん伸びています。健康な状態ですぐすく健康寿命と、平均寿命との差を縮めることを国の目標に決めたそうです。

デイサービスでは、毎日のレクや月の行事で皆さんに楽しんでいただけるように計画をしています。六月実施のミニ運動会では皆さんの意外な健脚にびっくり！あわてて後を追う職員の姿がありました。年齢は平均健康寿命よりもずっと高い皆さんですが、お元気にレクや行事に参加していただいています。今できることは何時までもできるように、デイサービスに來ることが生活のリズムの一部となるようにしたいと思っています。



有料老人ホーム 望みの門ハイム 望みの門ハイムに赴任して

管理者 坂井 順子

六月に辞令を受けて、ハイムの管理人になりました。今までの仕事（学園）とは全く違うので、自分のすることが分からず、戸惑うだけでした。とりあえず、居住者に挨拶に行きました。

学園出身の方は「うそでしょ。本当けえ！」と喜んでくれました。

二十年、同じ教会である方は、しばらく笑い続けるだけでした。

望みの門教会に、出席されている方もおり、快く受け入れて下さり、初日がスタートしました。

ハイムは、アパートですから、住人が自由に安心して生活する所です。しかし住人同士の交流も必要と思い、七夕飾りを一緒にしましようにとポスターで呼び掛けたりとこころ、多くの方に、多くの女性が入院している



方以外全員が参加してくださいました。みなさん、乙女心に戻ったような願いを書いたりして、にぎやかな時となりました。楽しんでいただけたようです。

仕事の内容は勿論、パソコンの開き方も知らなかった私に、先輩やスタッフが、快く時間を割いて、何回も教えてくれました。おかげで、今では業務日誌が打てるようになりました。奇跡です。

私がハイムに異動したのは、神様のお心であると思います。またここに居られるかたの多くは、終の住家としてハイムを選ばれたと思います。ここに勤務する者として、居住されておられる方々と、一日一日を悔いなく大切に、楽しく過ごしていきたいと願っています。

就労継続支援事業 望みの門新生舎

「毎日奮闘中!!」



職業支援員 大貫砂登子

「ピ。ピ。ピ。」「ピュー」「ヒューインヒューイン」。のぞみベーカーリーでは三月に障害者自立支援基盤整備事業で購入していただいたデッキオーブンが毎日こんな音を立てて動いています。それは、機を同じくして三月からJA君津市の経営する直売所「味楽園 さだもと店」での委託販売が開始され、のぞみベ-

カリのパン・クッキー、エコクラブの花、おりひめ倶楽部の手芸品を販売することとなり、これまで以上の増産を目指して、この新品のデッキオーブンは購入直後から毎日フル稼働が続いているのです。皆さんも一度「味楽団 さだもと店」に足を運んで見てはいかがでしょうか。

さて、のぞみベーカリーでは四月に五名の新メンバーが加わり、現在一四名と今までになく大所帯となりました。そして、洗い物やパンの分割・袋詰め・厨房などそれぞれの利用者さんに合わせて作業分担をしています。中でも新メンバーは毎日緊張して取り組む人、「楽しい！」と言って作業する人など色々なことを感じながら作業にあたってくれています。「Nさん〇〇取ってきて」と言われても何がどこにあるかも解からない状態…。しかし、悪戦苦闘しながらも何とか覚えようと一生懸命に努力している様子が伺えます。そして、早くも三ヶ月が経ちました。職員



も新しくなったオーブンに慣れてきた頃。利用者さんの中にも少しずつですが変化が見えてきました。「洗い物を午前中に全部終わらせるのが目標」というNさん。ショーケースを毎日ピカピカにすることに責任を持つ日さん。はじめはエプロンの結びが出来なかったけれど家で練習して出来るようになったS君。最初は緊張だけの作業から目標を持って取り組むようになってきました。何よりも自分の担当する仕事に責任を持つ姿勢が出てきたことに大きな成長を感じます。

しかし、日々目標を持って取り組む事は大変な事です。時には忙しい仕事に苛立ちを覚えたり、不満や休みたくなる事もあるでしょう。でも、毎日美味しいパンやクッキーが焼けるのは一人一人の働きがあるから。失敗する事もあるけれど、成功した時の喜びは格別です。私はそんな利用者さんのサポーターでありたいいつも考えています。

のぞみベーカリーは毎日・毎日奮闘中!!
「さあ今日も皆で頑張るぞー」

共同生活介護・援助事業 グレースホーム 「今年も行ってきました」 親睦旅行

世話人 藤崎 美智

今年も七月七日から八日にかけて、利用

者の皆さんが待ち焦がれていたグレースホーム親睦一泊旅行に行ってきました。今年は、何年か前にお世話になった「いこいの村たてやま」が宿泊場所です。旅行当日は、小雨が降ったりやんだりの天気でしたが、早めの昼食を摂り館山道の終点「富浦インター」を目指して出発しました。館山に着く頃には雨もあがり、絶好の旅行日和となりました。これも利用者・職員の普段の行いの良さでしょうか……。

さて、富浦インターを降りると、本日の目的地である「南房総道楽園」にある「ものまね赤尻文化会館」に到着です。ここでは面白い物と、ものまねショーの見学です。今回のショーは、「みはる」さんという方のもので、ねショーです。実は、前日のテレビ番組の「ものまね王座決定戦」で「みはる」さんが出演していたため、みんなで「みはる」さんの唄



を聴き楽しみにしていたのです。ショーが始まると、乗りの良い利用者さん達は大歓声！拍手・拍手の嵐で、「みはる」さんが他のお客さんに「さくらではありませんから」と冗談を言っていただけのほどの大盛り上がりで、四十分間のショーを楽しみました。そして、もうお土産を両手に抱えている利用者も何人かいました。

ものまねショーの余韻を残し、バスをいこの村たてやまに向けて三十分程走らせると、ホテルに到着です。チェックインを済ませ、各部屋で少しのんびりしてから温泉に入り、ゆったりとした時間を過ごしました。そして、いよいよ待ちに待った「暑氣払い」です。四月から新たにグレースホームの仲間になった林さんの乾杯の音頭で、宴会の始まりです。沢山のご馳走をあっという間にたいらげ、いよいよカラオケタイムへ。「みはるさんのものまねショー」の影響もあってか、利用者さんもカラオケの唄に気合いが入り、普段よりも盛り上がったように感じたのは私だけでしょうか？

翌日は、バイキングでの朝食を楽しみ、ザ・フィッシュで昼食と最後のお土産を購入してグレースホームに帰ってきました。

今回の旅行は残念なことに入院や風邪での静養のため、二名の方が参加することができませんでした。来年は、全員揃っての旅行

にするためにも健康管理に努めていきたいと思っています。

地域活動支援センター 望みの門ヨカデイサービスセンター

ヨカデイセンターの笑顔の為に

センター長 橋本 順子

平成十六年十月に地域活動支援センターとして開所後、まもなく八年を迎えます。

私は今年五月より、ヨカデイセンター配属となり、何も分からない状態でしたが、今では利用者の皆様と共に、生きがいを模索しつつ、日々を楽しんでおります。

三方の窓から明るい陽差しと心地良い風が入り込む、こじんまりとしたセンターを、現在十名（定員一五名）が通所されています。デイサービスですので来所されますと、バイタルチェックを済ませ、入浴。おしゃべりをしながら工作、手芸等自分の好きな事に挑戦します。午後からは昼食の後、生きがい活動として、散歩、リハビリ体操、器楽、カラオケ、週一で聖書の話。又、月一、二度は皆さんと一緒にやつを手作りしたり、外食では、お寿司や好物を味わったりして、その時々行事を企画し皆様に喜んで頂けるプランを提供すべく、思い出作りに励んでいます。

ある日、グレースから通所されているSさ

んがお茶を飲みながら「ヨカにきて毎日お風呂に入れて色んな事ができて、帰ると自分の部屋があって、温かい布団に寝られて、病气や怪我をしたら直ぐに病院に連れて行ってもらえて、三食おいしいご飯が食べられて、本当に感謝しないといけないね。」と、自分の決して幸せとは言えない境遇を乗り越えて、話されていました。私はかつて、かずさの里で当時高一だったT君の言葉を思い出し、その時と同じ感動を今、又味わえた喜びを噛みしめています。

改めて五十周年を迎え、創立されたドーラ先生の尊いお働きとご苦労に心から感謝する者の一人です。更に先生方、先輩方の長い歴史を育くんで来られた重さに思いを馳せ、微力ながら利用者の皆様の「笑顔」の為にスタッフと共に頑張る決意です。



縁がつなぐ援



障害者グループホーム等支援ワーカー

南雲いずみ

出勤間際に電話がなり、「洗面器がないのよ。ヘルパーさんが持っていったのかしら？」と母の声。持っていくわけがないでしょうと思いつながら「今度帰った時に別の洗面器を探すね」と電話を切った。母は認知症です。父が亡くなった今、「私がこの家を守る」という母の希望から、実家で一人暮らしをしています。公的な福祉サービスは受けていますが何よりも、近所と友達と知人が毎日のように入れ替わり顔見せ、おしゃべりをし、お茶飲みをして、お互い健康を気遣いながら穏やか（でもないけれど）生活をしています。時々帰省をし、心の整理をしています。遠距離介護を認め、支えてくれる望みの門の皆さんに感謝をしながら、地域のひとと人の繋がりが生活を支えることを強く感じています。

ところで、四月から君津圏域障害者グループホーム等支援ワーカーとして仕事をさせていただきます。

ワーカーの仕事は、入居者・入居希望者・ご家族からのその人の生活に関わるご相談、ホームを運営している事業所・スタッフから、

支援の方法・運営等で困ったことのご相談をお受けしています。また、定期的な研修や交流会を開き、話ができる場の提供、新しくホームを開設するお手伝いなどを行っています。新人ワーカーとしては皆さんに顔を覚えていただくことが大事と思い日々事業所等の訪問をしています。最近では、相談件数が増えています。日々の活動で出会った皆さん、縁があつて出会えた皆さんと寄り添い、地域でその人らしい生活ができるように、皆さんと共に歩んでいきたいと思っています。人と人のつながりが縁で、そこから支え合う援が生まれると思います。まさに「縁がつなぐ援」です。これからも、縁を大切にして仕事をしたいと思っています。よろしくお願いをします。

児童養護施設 望みの門かずさの里

かずさの里に就いて



保育士 田巻 亮

児童養護施設：とインターネットの検索欄に打ち込み、色々と調べていた三月。あれから早四ヶ月が経ちました。着任と同時に私の考えがインターネットによって頭でっかちになっていた事に気づいた四ヶ月前でもありません。

かずさの里で一番最初に感じたことは職員（大人）の多大なる愛です。愛という言葉は文章にすると少し恥ずかしい気もしますが、子ども達との関わりを見ていると愛という言葉しか見つかりません。またそれに対して子ども達もその愛を当たり前のものとして受け入れている姿に、自然と笑みを浮かべている自分がいまいました。当たり前となるまでには施設開設より尽力を尽して下さった方々の積み重ねが今ここにあり、それを壊さずより良い支援を思案し実行していく事が私の成すべきことだと思っています。「子どものために何が出来るのか」という概念を根底に持ちつつ、「子どもとともに」、「子ども自らが」という意識を持つての支援が出来るかどうかが今後の私の課題です。

今、かずさの里では、出来る限り家庭的な環境の中で、職員との個別的な関係を重視したきめ細やかなケアを提供していく為に全グループのユニット化を目指しています。一対一の愛着形式の時間が多く取れることを軸として、その子の心情を捉えゆっくりと信頼関係を築く事。子どもたちが自立へ向けての第一歩になることと信じて邁進して行きたいと思っています。

思い返すと、人事異動が決まり、不安や葛藤の中、たくさんの方々から助言をいただきました。「お前の人生にとって必要な仕事だ」、

「二十四時間子ども達と関われるということ
は本当に幸せなことなんだぞ」。異動後、そ
の言葉の意味がすぐに分かりました。それと
同時に私を支えて下さるたくさんの方の望みの門
の職員がいることに気付きました。感謝の気
持ちは今後の支援に繋げていけるよう職務に
専念したいと思っています。

乳児院 望みの門 方舟乳児園

おでかけ



保育士 小川 潤子

「今日はおでかけだよ」子どもたちは歓声
をあげて大はしゃぎです。いつもよりちょっ
とだけお洒落をして、リュックを背負い意気
揚々と車に乗り込みます。

方舟乳児園では毎月、様々な行事を行って
います。冬はクリスマス会やお正月。夏は夕
涼み会や灯籠流し等、季節の行事を通して四
季を楽しむことを目的としたこれらの行事の
他に、誕生日パーティーやお宮参り等の子ど
もの成長を願った行事も行っています。中
でも外出は子どもたちが最も楽しみにしてい
る行事のひとつです。

大きな公園にお弁当を持って出掛けるこ
ともありますが、梅雨時期という事もあり先
日は図書館へ出掛けました。車窓から流れる

景色を眺めな
がら楽しくお
しゃべりをし
ていると図書
館に到着しま
した。広い図
書館に知らない
人々。職員
の手をぎゅっ
と握り最初は
緊張した様子
の子どもたち
でしたが、絵



本のコーナーに行くことと沢山の本に興味津々で
す。絵本を手に取り椅子に腰かけて開いてい
る子もいれば、館内を歩き回っている子もい
ます。普段見る事の出来ない多くの絵本に囲
まれて、それぞれに楽しい有意義なひと時を
過ごすことが出来ました。お昼ごはんはファ
ミリーレストランで外食です。なにやらソワ
ソワしている様子の子どもたちに「なに食べ
ようか?」と聞くと「アイスクリーム」と答
えるSちゃん。メニューから食べたいものを
選び、アイスクリームも注文しました。お店
で食べるお昼ごはんは何だか嬉しくて、食は
進みませんでした。普段とは違う経験が出
来たと思います。

子どもたちの笑顔と嬉しそうにはしゃぐ姿を

見ると、いつもとても微笑ましく感じます。こ
れからも色々な所へおでかけして、色々なも
のを見たり感じたりしていきたいと思っています。

編集後記

本格的な夏の到来となった。子どもたちは
は学校から解放されて大喜びだ。かずさの
里の三五名は元氣一杯。相内誠君にとって
は痛恨の県予選大会ではあったが、これも
人生の貴重な体験としてほしい。さて、武道
教室も職員のボランティア活動により二年目
が過ぎた。子どもたちの元氣な気合が薄っぺ
らな平成社会に活を入れそう。ボランティア
リーダーに感謝。今号は、図らずも八名の内
部異動者の寄稿となった。佐野、簾、両施設
長の感慨は別格としても、富津ゾーンに於い
ては異動人事というにはおこがましいような
隣のお家に移る位のもの。矢張り人材は育ち
つつある。白眉は法人始まって以来の出来事
となった管理栄養士の誕生である。彼女は二
児の母であるが数度の挑戦で見事栄冠に輝い
た。本年は法人の新たな一歩が踏み出され
た年となった。過去に感謝はしても、拘泥せ
ず前進すなわち、福祉ニーズの適確なる把握
と実践が望まれよう。法人機関誌五十年分が
一枚のCDとなった。これにも感謝したい。

(Y・I)